

R2008SB S-FHSS/FHSS-2.4GHz 8ch受信機

S.BUS 出力+従来出力(CH1-8)

1M23N17451

この度は S-FHSS/FHSS-2.4GHz システム対応受信機 R2008SB をお買上げいただきまして誠にありがとうございます。この R2008SB には S.BUS システム用の出力および従来システム用のチャンネル出力 (CH1-8) が搭載されています。S.BUS システム対応のサーボやジャイロ等の他、従来システムのサーボ等も併用することが可能です。

●この R2008SB は Futaba 製 S-FHSS/FHSS システムの送信機およびモジュール (TM-FH) に対応します。

使用上の注意

Futaba S-FHSS/FHSS システムは、Futaba FASST システムとは互換性がなく動作しません。

警告

受信機を搭載する際は、スポンジで包むなど防振対策をする。また、水分がかからないようにする。

■受信機は振動、水分に弱く故障する危険性があります。

コネクターがショートしないように導電帯からは、離して搭載する。

■ショートすると破損します。

アンテナ搭載時の注意

警告

2つのアンテナ(先端 30mm) がお互いに 90 度の位置関係になるように搭載する。

■R2008SBは2つの異なる位置で信号を受信できるように、2つのアンテナが装備されています (ダイバーシティアンテナ)。2つのアンテナを自動的に切替えて常に安定した受信状態を確保しています。

アンテナをカットしたり折り曲げたりしない。
■受信距離が短くなり操作不能になります。

アンテナを引っ張らない。
■断線し操作不能になる危険性があります。

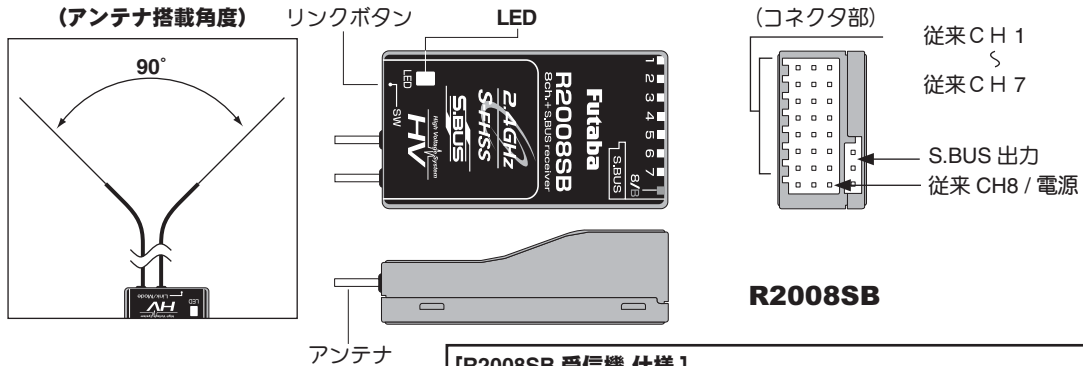
アンテナはサーボ、モーター、バッテリーおよびそれらの配線から少なくとも 1.5cm 以上離して搭載する。
■受信距離が短くなり操作不能になります。

カーボン胴体機に使用時の注意

警告

アンテナ部分(先端 30mm) は完全に機体の外側に出すこと。

■外側に出したアンテナ部がフライト中に風圧等で機体内部に戻らないよう注意してください。アンテナがカーボン胴体内にあると受信状況が悪化し操作不能になります。



受信機 LED 表示

緑色	赤色	状態
消灯	点灯	無信号時
点灯	消灯	通常動作時
点滅	消灯	受信信号の ID が不一致
交互点滅		受信機内部の異常 (メモリー等) 電源再投入で回復できない場合は弊社カスタマーサービスセンターへ点検・修理依頼してください。

[R2008SB 受信機仕様]

S-FHSS/FHSS-2.4GHz 方式 (自動認識)、S.BUS 出力+従来システム用出力 (CH1-8)

- ・アンテナ: ダイバーシティ方式
- ・サイズ/重量: 24.9x42.8x14.0mm / 9.5g
- ・定格電圧: 4.8 ~ 7.4V
- ・バッテリー F/S 電圧: 3.8V

※ BEC 電源を使用する場合、容量がご使用のサーボ等の条件に合っていることが必要です。また、乾電池は使用しないでください。誤動作の原因となります。

※ バッテリー F/S 電圧は 4 セルニッカド/ニッケル水素バッテリー用に設定されています。その他バッテリーを使用の場合、バッテリー F/S 機能は適正に動作しません。

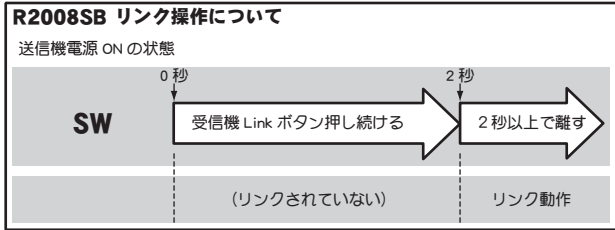
※ F/S 機能は、全チャンネル設定可能。ただし、送信機側の機能により異なります。(TM-FH をご使用の場合は 3CH のみとなります。)

※ S.BUS 出力は、最大 8CH 迄対応。ただし、使用可能チャンネル数は送信機により異なります。(未使用の CH はニュートラル出力となります。) また、F/S 時は、F/S 設定 CH は F/S 位置で、それ以外は Hold 状態となります。

リンク操作

リンクボタンにより使用する送信機とリンク操作を行います。

また、**TM-FH** モジュールを使用時は 3CH のみ F/S ポジションの設定が可能です。(リンク時のスロットルスティックの位置が F/S ポジションとなります。)



※リンク操作は送信機を 50cm 以内に近づけて行ってください。

※リンク操作時に、周囲で他の S-FHSS/FHSS-2.4GHz システムが使用されている場合、それらの送信機の中の 1 台とリンクしてしまう場合があります。このためリンク操作が完了したら、必ず動作を確認してください。

※リンク操作時、送信機の S-FHSS/FHSS-2.4GHz モードを自動判別します。

※リンク操作、F/S ポジション設定方法等の詳細は、ご使用の送信機またはモジュールの取扱説明書をご覧ください。

警告

⊘ リンク操作時は動力用モーターが接続された状態やエンジンがかかった状態では行わない。

■ 不意にモーターが回転したり、エンジンが吹け上がりすると大変危険です。

! リンク操作が完了したら、一旦受信機の電源を OFF とし、リンクした送信機で操作ができることを確認する。

● S.BUS システムについて

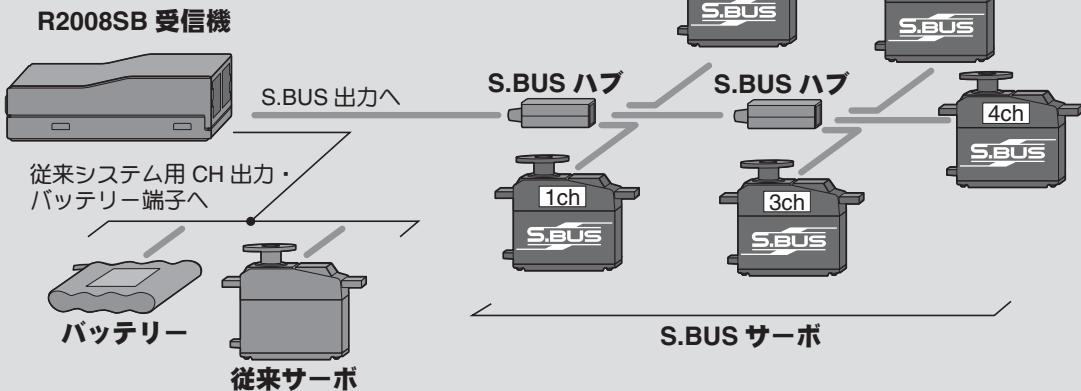
S.BUS システムでは従来のラジコンシステムとは異なり、操作信号は受信機からサーボやジャイロなどの S.BUS 対応機器へデータ通信により送信されます。

このデータには「チャンネル 3 のサーボが 15 度に、チャンネル 5 のサーボは 30 度に」といったように複

数の機器への指示がまとめて含まれており、S.BUS 対応機器はその中から自分に設定されたチャンネルの部分のみを実行します。

このため、サーボ等の複数の S.BUS 対応機器を同じ信号線に接続して使用することができます。

[S.BUS システムでの接続方法]



※ S.BUS サーボを S.BUS 出力に接続する場合、チャンネル設定が必要です。この場合、チャンネル設定機器 **SBC-1** または S.BUS チャンネル設定ができる対応受信機を使用して S.BUS サーボにチャンネル設定します。例えば、S.BUS サーボに CH2 を設定した場合、従来システム出力の CH2 と同じ動作となります。

※ R2008SB 受信機の場合 S.BUS サーボと従来のサーボとの併用も可能。ただし、S.BUS 出力には従来サーボは対応していません。

※ S.BUS サーボを別電源で使用する場合は、S.BUS 延長コード (2 分岐/別電源用) を使用します。接続方法は延長コードに付属の取扱説明書をご参照ください。

警告

! S.BUS 使用時は必ず送信機の電源を ON してから受信機の電源を ON して、操作できることを確認してからご使用ください。また、受信機電源が ON の状態で S.BUS サーボのコネクターを抜き差ししないでください。

■ S.BUS 通信判定できずに誤動作します。